

■ 夏期の需要抑制目標

- 以下の需要抑制目標に応じて、ピーク期間・時間帯（※）を中心に、最大使用電力の抑制をお願いします。
※7～9月の平日の9時から20時

大口需要家（500kW以上）： **15%**
 小口需要家（500kW未満）： **15%**
 家庭： **15%**

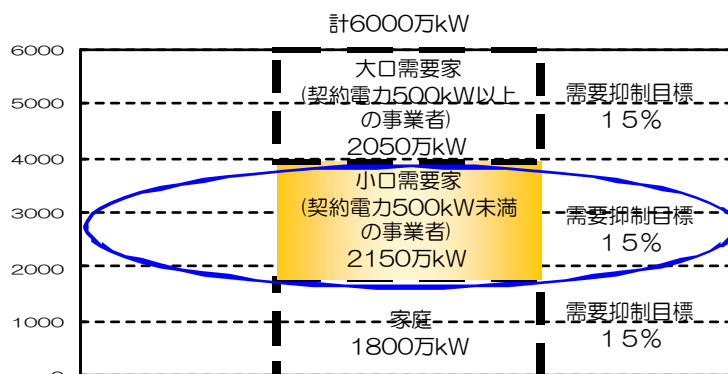
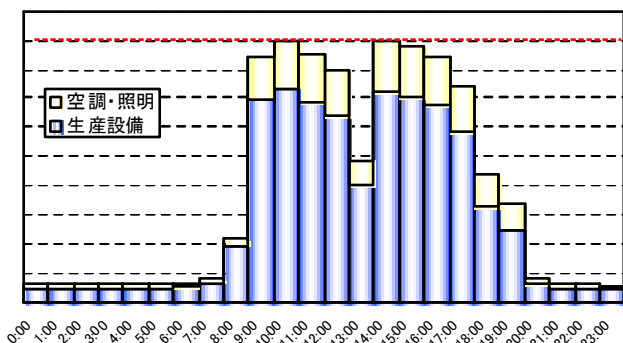


図1：東京電力管内の昨夏の最大ピーク需要の内訳

■ 製造業の電力消費の特徴

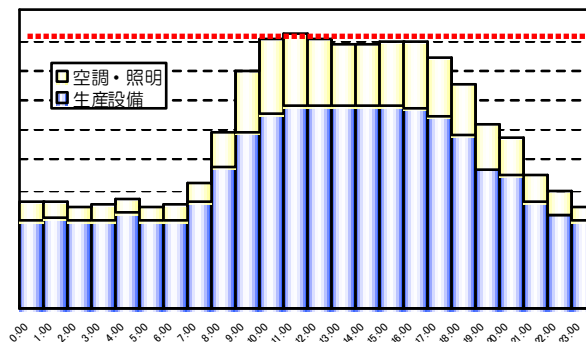
1日の電気の使われ方（夏期のピーク日）

昼間操業の需要家（一般的な稼働時間）



主な業種：金属加工、自動車部品製造、
電気・一般機械製造（組立） など
 負荷設備：生産機械、電気炉、空調・照明 など

昼夜連続操業の需要家（高い稼働時間）



主な業種：食品加工、電気・半導体製造 など
 負荷設備：生産機械、空調・照明、
クリーンルーム、冷凍・冷蔵設備 など

電力消費の内訳（ピーク時：14時前後）

- 電力消費のうち、生産設備が占める割合が高いため、生産工程の節電対策は特に効果的です。
- 生産工程や納期、必要な生産環境（空調）に応じて電力消費形態が異なります。

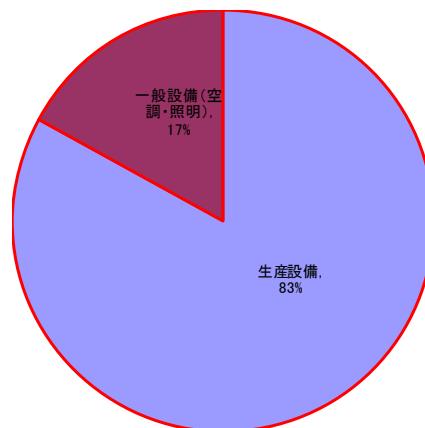


図2：製造業の用途別電力消費比率事例

節電行動計画

事業者名		責任者名	
------	--	------	--

節電目標		節電実績	
------	--	------	--

生産設備の節電メニュー

- 不要又は待機状態にある電気設備の電源オフ及びモーター等の回転機の空転防止を徹底する。
- 電気炉、電気加熱装置の断熱を強化する。
(節電効果：保温施工の実施例)

機械・設備毎の節電効果	実行チェック
-	
7%	

ユーティリティ設備の節電メニュー

- 使用側の圧力を見直すことによりコンプレッサの供給圧力を低減する。
(節電効果：単機における0.1MPa低減時)
- コンプレッサの吸気温度を低減する[設置場所の室温と外気温を見合いする]。
(節電効果：単機における吸気温度10℃低減時)
- 負荷に応じてコンプレッサ・ポンプ・ファンの台数制御を行う。
(節電効果：コンプレッサ5台システムでピーク負荷60~80%の場合)
- インバータ機能を持つポンプ・ファンの運転方法を見直す。
(節電効果：弁の開閉状態の確認・調整によりインバータ機能を活用し全圧が80%となった場合)
- 冷凍機の冷水出口温度を高めめに設定し、ターボ冷凍機・ヒートポンプ等の動力を削減する。
(節電効果：利用側の状況を確認しながら7℃→9℃へ変更した場合)

8%	
2%	
9%	
15%	
8%	

一般設備(照明・空調)の節電メニュー

- | | | | |
|----|---|--------------|--|
| 照明 | 使用していないエリアは消灯を徹底する。 | - | |
| | 白熱灯を電球形蛍光ランプやLED照明に交換する。
(節電効果：白熱灯60W → ①電球形蛍光ランプ、②LED照明、に交換した場合) | ①76%
②85% | |
| 空調 | 工場内の温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。
(節電効果：室内温度設定を2℃上げた場合) | 6% | |
| | 外気取入量を調整することで換気用動力や熱負荷を低減する。
(節電効果：換気ファンの間欠運転または停止により30%導入量を低減した場合) | 8% | |
| | 室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。
(節電効果：日射の影響を受ける室外機によらずをかけた場合) | 10% | |

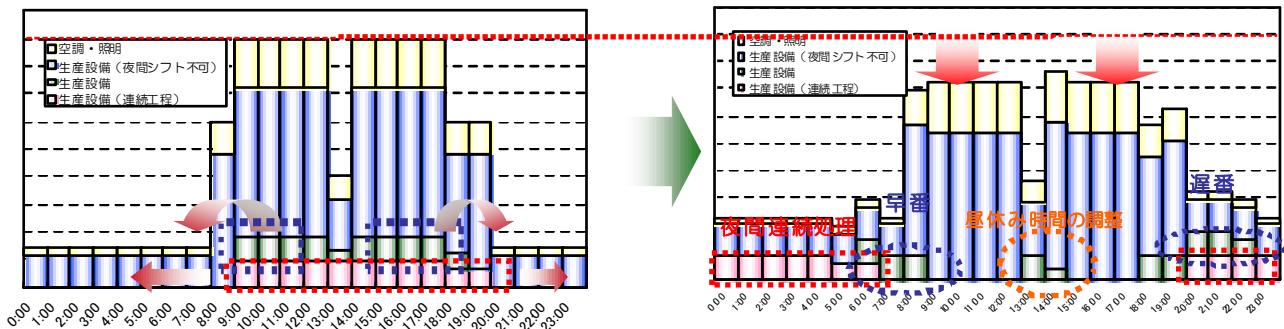
-	
①76% ②85%	
6%	
8%	
10%	

その他の節電メニュー

- | | | |
|------|---|--|
| その他 | デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力Δ1.5%とし、警報発生時には予め決めておいた節電対策を実施する。 | |
| | 設備・機器のメンテナンスを適切かつ定期的を実施することでロスを低減する。 | |
| 節電啓発 | 節電担当を決め、責任者(社長・工場長)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。 | |
| | 従業員の夏期の休業・休暇の分散化・長期化を促す。 | |
| | 従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。 | |

生産用動力の稼働シフトによる電力ピーク抑制

- | | | |
|-------|-----------------------------------|--|
| 稼働シフト | バッチ処理工程を早朝や夜間へシフトする(早番・遅番対応等)。 | |
| | 連続処理工程を昼間から夜間へシフトする(熱処理などの加熱工程等)。 | |
| | 事務作業や昼休みの時間を調整し、電力ピークをシフトする。 | |



※ご注意 ・記載している節電効果は、機械・設備毎の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。そのため、設備内容や利用状況等によって効果は異なる場合があります。
 ・空調については電気式空調を想定しています。
 ・節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意下さい。